

カンタン♪環境家計簿をひけてみましょう！

環境家計簿とは…

皆さん家計簿は普段からつけていますか？
「家計簿＝お金の管理」というイメージが
ありますが、環境家計簿は、1か月の電
気やガス、水道などの使用量を記入し、
それぞれに排出係数をかけるだけで、

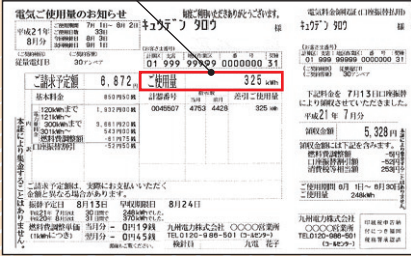
ご家庭で排出しているCO₂(二酸化炭
素)の量がわかる家計簿です。
環境家計簿で、何もしなかった月と、省エ
ネなどに取り組んだ月を比較して、CO₂
の削減効果を確認することもできます。

STEP 1

電気のCO₂排出量を計算してみましょう！

電気のご使用量 (kWh) × CO₂排出係数 (0.348 kg-CO₂/kWh) = 電気のCO₂排出量 (kg)

※九州電力が販売する電気1kWh当たりのCO₂排出量



※：国が定めた「事業者別排出係数の算定方法」により算定した、当社の2008年度実績値 (CO₂排出クレジット反映後)

電気のCO₂排出量を減らすには…

ご家庭での省エネなどにより、
電気をつかう時にCO₂を減らす

原子力の活用や太陽光発電の
導入拡大などにより、
電気をつくる時にCO₂を減らす

電気をつかう時、つくる時の両面での取組みによって、
CO₂排出量を減らすことができます。

STEP 2

環境家計簿を使って、CO₂削減量を見てみましょう！

	省エネチャレンジ前 使用量	省エネチャレンジ後 使用量	排出係数	CO ₂ 削減量
電気	kWh	kWh	× 0.348 =	kg
都市ガス	m ³	m ³	× 2.1 =	kg
LPガス	m ³	m ³	× 6.5 =	kg
水道	m ³	m ³	× 0.36 =	kg
ガソリン	ℓ	ℓ	× 2.3 =	kg
合計				kg

(注)各係数は、環境省主催「我が家の環境大臣「エコファミリー」」より。ただし電気の排出係数については、当社係数を使用。

CO₂削減量合計 (kg) ÷ 1.2 = スギの木 本 が吸収するCO₂量に相当します。

※：林野庁ホームページより(スギ1本当たりの月間CO₂吸収量に換算)



「我が家の環境大臣」ホームページ
<http://www.eco-family.go.jp>



モバイルでも
チェック！

環境省主催「我が家の環境大臣
「エコファミリー」」に登録
(入会金、年会費無料)すると、
パソコン、モバイルから入力
ができる、環境家計簿が使え
ます。環境家計簿に入力した
データは、自動的にグラフ化
されるので毎月の推移もカン
タンにわかります。
また、サイト内にはエコライフ
のヒントになる楽しいアイデア
も満載です。

ラク！で楽しい
環境家計簿、
ありませんか？

地球のこと、もっと知りたい!

地球温暖化について。



約200年前

現在

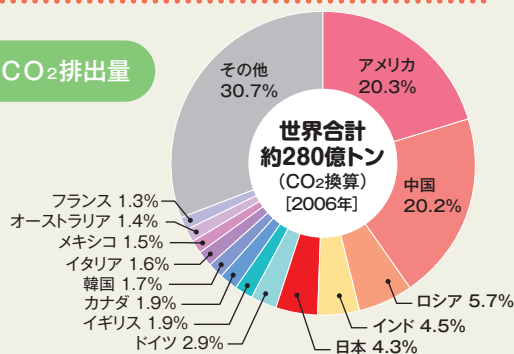
大気中のCO₂やメタンなどは、地球が太陽の光から得た熱を封じ込めて、地表を暖める「温室効果」があり、温室効果ガスと呼ばれます。もしもこの温室効果ガスが全くなかったら、地球の温度は-18℃程度になると言われており、私たちは暮らしていけません。しかし、温室効果ガスが増えすぎると、地球上の熱がどんどん溜まり、地球の温度が上昇すること(地球温暖化)になります。温室効果ガスの中で最も問題になっているのが、私たちの生活からも多く排出されるCO₂なのです。

地球温暖化が進むと、大洪水や異常気象の頻度が高まったり、感染症による健康被害が増加することなどが懸念されています。

世界では、今日もどんどんCO₂が増え続けています。

経済の発展や人口の増加にあわせて、世界ではCO₂排出量が増え続けています。これまでCO₂を大量に排出しながら発展してきた先進国が率先して対策を行うとともに、将来的に先進国の排出量を上回ると予想されている開発途上国も、何らかの形で排出削減・抑制に参加することが重要になります。

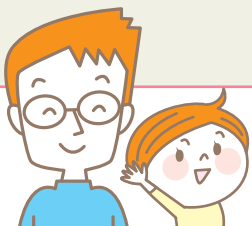
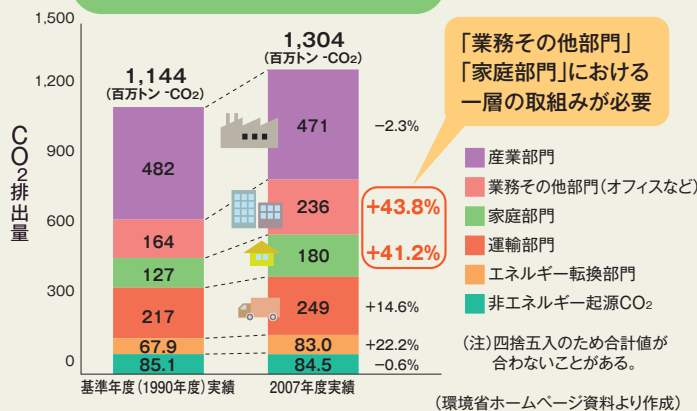
世界のCO₂排出量



日本では、家庭などから出るCO₂が増えています。

日本のCO₂排出状況を部門別にみると、産業部門からの排出量が最も多くなっていますが、1990年からの変化をみると、業務その他部門(オフィスなど)や家庭部門の増加率が大きくなっています。このため、日本のCO₂排出量削減には、ご家庭での取組みもとても重要なのです。

日本のCO₂排出量(部門別)



地球温暖化、ここ押さえとこ! ワンステップアップ

京都議定書

「京都議定書」とは、1997年12月に京都で開かれた国連会議*で決められた約束のことです。この会議で、日本は2008年~2012年平均の温室効果ガス排出量を、1990年に比べて6%減らすという約束をしましたが、2007年度では、CO₂は減どころか9.0%増えている状況です。なお、国別の削減目標はアメリカ7%減、EU8%減となっていますが、世界で最もCO₂排出量の多いアメリカは、発展途上国が削減義務を負っていないことなどを理由に、2001年に離脱を表明しています。

*: 国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)

日本の中長期目標

日本は2009年6月に、2020年の温室効果ガスの排出量を2005年に比べて15%減らすという「中期目標」を発表しました。この中期目標は、2050年までに60~80%の温室効果ガスを削減するという「長期目標」の実現に道筋をつけるものとされています。生物種の絶滅や干ばつ・洪水などの多発を避けるには、世界全体の温室効果ガスの排出量を2050年までに半減させることが必要と言われており、2050年を長期目標とし、その目標に向かう中間点が2020年となっています。この中期目標は、今後の国際交渉の中で最終決定されることになっており、すでに省エネが進んだ日本では、各ご家庭での経済負担も避けられないことが予想されています。